

提携に至る経緯

平成元年（1989年）12月14日に、オースチン市日米協会姉妹都市委員会の松本利松委員長から県宛てに、オースチン市の姉妹都市委員会の会合において大分市が第一候補に挙げられた旨の文書が届き、これを受け、翌年（1990年）の1月4日に平松県知事が佐藤大分市長に会い、初めてオースチン市の姉妹都市提携の意向が大分市に伝えられました。

その後、3月5日にはリー・クックオースチン市長より佐藤市長宛てに、市議会での正式な承認後直ちに提携を行いたい旨の文書が届き、これに対して佐藤市長は、正式な提携申し込みがあれば前向きに検討したい旨、3月7日に文書にて回答しました。

6月24日、リー・クック市長から、市議会満場一致で大分市との姉妹都市提携が採択されたので、市長と議会の付託を受けた松本委員長から大分市を訪問したい旨の文書が届き、7月19日に松本委員長が大分市を訪問、佐藤市長と会い、ここで姉妹都市提携についての話し合いが行われました。大分市からは、8月20日から5日間、長谷目助役と日名子副議長がオースチン市を訪問し、準備折衝を行いました。

以上のような経緯を経て、平成2年（1990年）10月30日、リー・クック市長、ボブ・ラルソン市議会議員、松本利松姉妹都市委員会委員長ら、総勢11名による訪問団が大分市を訪れ、姉妹都市提携調印式が行われました。これにより、オースチン市と大分市の姉妹都市交流が正式に始まりました。